

令和 6 年 6 月 26 日現在

機関番号：35405

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K02198

研究課題名(和文) 住まい手の主体的な住み継ぎや地域環境の継承をめざした生活知共有プログラムの開発

研究課題名(英文) Development of residence related knowledge sharing program for resident's autonomous living in and passing on their residences and community environment

研究代表者

小林 文香 (Kobayashi, Fumika)

広島女学院大学・人間生活学部・教授

研究者番号：80389808

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、住まい手の住みづくりに対する主体性の育成には生活知(住経験および住経験を通して得た知恵)の共有が有効であり、この主体性は住み継ぎや地域環境の維持・継承にもつながるという仮説のもと、住まい手や住情報提供の現状把握を行い、住まい手に主体的な住みづくりや住み継ぎを促す教材・学習プログラムを開発し、実践した。学習会参加者による評価より、情報を提供するだけでなく、同じ地域に住む住民同士で住経験や知恵を共有することが住まい手の主体性を引き出すという結果を得た。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで情報や知識が不足または欠如した存在として見られていた住まい手に言語化・共有化されていない住経験に基づく生活知があることに着目し、住まい手の中で生活知を共有することで、課題の指摘に留まっていた住まい手の主体性の育成を目指した。また、住まい手が自宅の維持・継承だけでなく、地域住民の一員として地域環境の維持・継承への視点を獲得することを目的に、住まい手参加型の生活知の共有プログラム・教材を開発し、地域住民を対象に実践を行った。学習プログラムの実践では、住まい手が自らの意向や自宅が地域環境に及ぼす影響に気づき、自宅や地域の問題解決に向けて行動を起こそうとする主体的な姿勢を確認した。

研究成果の概要(英文)：This study posited that the sharing of knowledge of everyday life (residential-life experiences and knowledge gained from them) is effective in cultivating the autonomy of residents in their homemaking activities, and that this autonomy is then linked with living in and passing on one's residence in creating, maintaining, and passing on a positive community environment. Accordingly, this study sought to gain an understanding of the current status of residents and of housing information. Training materials and a learning program were then developed and implemented to encourage residents to create autonomous homemaking and pass along their residence to other persons. Evaluations by the participants of the learning program showed that not only providing information, but also sharing living experiences and knowledge with other residents in the same area brought out the autonomy of the residents.

研究分野：住情報、住教育

キーワード：住み継ぎ 地域環境の継承 生活知 住情報

1. 研究開始当初の背景

住まいづくりにはライフステージの変化をふまえた適切な住宅の取得、維持管理、継承が求められる。しかし、家族の多様化や高齢期の居住の多様化により、住まい手に住まいづくりに対する長期的な視点を求めるのは難しい。また、住まい手と専門家の間には情報の非対称性があり、住まい手が適切な情報入手や情報理解を行うのは難しく、住まいづくりに対する主体性が乏しいことも指摘されている。住まい手の主体的な行動を促すものとして、口コミ等による情報交換の有効性は一定の評価を得ているが、扱われている情報の信頼性は確保されていない。加えて、近年課題となっている住宅継承は、核家族世帯にとっては初めての経験に等しく、適切な住宅継承が行われなければ、地域環境の持続性は望めない。一方で、住まい手が自身の生活経験に基づき、主体的に住宅取得、維持管理、住宅継承に取り組む事例があり、そこで語られる住まい手の言葉は他の住まい手に生活や価値観を振り返らせる力を持つ。これまで住まい手は知識や経験が不足した存在とみなされてきた。しかし、住まい手は自身の住経験を通して得た生活知を備えている。住まい手の住経験に基づいた生活知が言語化およびアーカイブ化され、信頼性を確保した形で住まい手の間で共有されれば、住まい手の主体性を引き出すためのプログラムとなる可能性があるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、住まい手の住経験に基づく生活知の収集を行い、住まい手に主体的な住み継ぎや地域環境の継承を促す共有知について検討・考察し、住まい手の主体性育成をめざす生活知の共有プログラムを開発・検証した後、公開することを目的とする。

具体的には、住まい手が自宅の維持・継承だけでなく、地域住民の一員として地域環境の維持・継承への視点を獲得することを目的に、住まい手参加型の生活知の共有プログラム・教材を開発し、地域住民を対象に実践を行い、生活知共有の有効性を検証する。プログラムおよび教材の開発にあたっては、家庭科教育研究の知見もふまえ、住まい手が自ら気づき、考えることができ、地域で活用・実践できる学習プログラムを目指す。

3. 研究の方法

住まい手や住情報提供の現状把握を行った後、調査結果をふまえ、住まい手の主体性育成をめざした生活知の共有プログラム・教材を開発し、実践を行う。

(1) 住まい手や住情報提供の現状把握

① 住まい手の住経験に基づく生活知に関する調査

住まい手の住経験に基づく生活知を把握するため、住宅地を形成する広島市 W 学区住民を対象にヒアリング調査を行う。調査内容は住まい手の住経験（住宅取得経験、住宅維持管理状況、住宅継承の意向、住情報入手および住学習の経験等）、地域生活の様子などである。調査結果をもとに、モデルケースとなる住経験を抽出し、住まい手の間で共有すべき住経験や生活知について考察する。

② 住情報提供に関する事例調査

実家の管理や空き家対策など住宅継承につながる新たな住情報ニーズも生まれている。そこで、住情報提供の担い手として信頼を得ており、住まい手がアクセスしやすい自治体のウェブサイトを対象に、住まい手の支援を目的とした住情報提供および住教育の取り組みについて現状把握を行う。

③ 地域団体による住まいづくり・地域環境継承等の事例調査

地域団体による住まいづくりや地域環境づくりの事例を調査し、取り組みの特徴や課題について把握を行う。

(2) 住まい手の主体性育成をめざす生活知共有プログラムの実践・検証

上記の調査結果をふまえ、住まい手の主体性を引き出すための教材および学習プログラムを検討し、調査対象の広島市 W 学区にて、教材を用いた学習会・ワークショップを実践する。学習会・ワークショップ参加者には本プログラムの有効性について評価してもらう。今回検討し、実践に用いる教材は研究終了後に対象地域に配布することを前提に作成する。

(3) 調査対象地域について

前述 (1) の①および (2) の対象地域である広島市 W 学区は傾斜地にある人口約 6000 人の地域である。学区を構成する 5 町のうち 3 町は 1970 年代以降に山を造成した住宅地であり、戸建住宅および分譲マンションが混在して建つ。1980 年に現在の学区となり、現在は社会福祉協議会、町内会、女性会等の地域団体が地域活動に取り組んでいる。地域活動を牽引してきた世代が 70 歳代を迎え、世代交代の時期に来ている。

4. 研究成果

(1) 住まい手や取り組みの現状把握

① 住まい手の住経験に基づく生活知について

広島市 W 学区住民を対象にヒアリング調査を行った。ヒアリング内容は、住まい手の住宅取得経験、住宅維持管理状況、住宅継承の意向、住情報入手および住学習の経験、地域居住の意向などである。その結果、共通した関心事項として、自宅の維持管理・リフォーム、自宅の継承、実家の管理・相続、急傾斜の坂がある地域での居住継続に対する不安が挙げられた。また、ライフステージの変化とともに起こりうる住まいの問題に対して具体的なイメージを持ってないために、将来計画を立てることが難しい状況にあることがわかった。

② 住情報提供に関する現状

ライフステージに応じた住情報の提供現状を把握するため、市民が入手しやすい書籍・雑誌の収集を行い、掲載内容を整理した。その結果、住宅取得、維持管理、自宅の相続等に関する情報はそれぞれテーマが特化した形で情報提供がなされているが、住宅の取得から次世代継承までの流れを提示する住情報は乏しいことがわかった。

自治体に取り組む住宅政策および住情報提供の様子を把握するため、広島県および 23 市町のウェブサイト調査した。独自にガイドブック発行・相談会・セミナー等を行っているのは 23 市町中 5 市に留まり、内 4 市は空き家に関するものであった。自治体による情報提供においても、住まい手のライフステージの変化と自宅に起こりうる問題を関連づける情報は乏しい。あわせて、広島県住宅政策課へヒアリング調査を行い、住生活基本計画および県が行っている住情報提供の様子を確認した。

自治体による住宅継承に関する情報提供および啓発活動の様子を把握するため、市民向けの「住まいの終活ノート」「住まいのエンディングノート」等（以下「ノート」）を制作し、ウェブサイトで公開している 1 県および 6 市の「ノート」を対象に調査した。調査対象となった「ノート」はいずれも空き家予防を目的に制作されており、家系図、所有不動産の情報、将来の希望等を使用者が書き込む形式となっている。また、参考資料として、自宅が空き家になった場合の問題点、空き家の適正管理、相続手続き、関連制度、相談窓口等の情報を掲載している。一方で、居住歴の振り返り、地域環境、まちづくりに関する記入ページや情報提供のページはなかった。

③ 地域団体による住まいづくり・地域環境継承等の取り組み

広島市 B 地区社会福祉協議会では、地域環境の維持・継承を目的に、ライフステージ毎の生活・住宅・地域の課題を整理し、地域活動に反映させている。地域に住み続けることを希望する住民が多い地区のため、住み続けるためには住宅が必要という視点で住宅相談の受付やリバースモーゲージなどの情報提供を行っている。また、地域住民を対象とした各種セミナー・講座の企画・運営を行う広島市 W 学区女性会では、新型コロナウイルス感染流行に伴う活動の変化、学区内の住宅地開発による地域環境の変化、今後の活動の方向性等について聞き取りを行い、地域の高齢化に伴い、地域住民の住まいへの関心が変化している様子を確認した。

(2) 住まい手の主体性育成をめざす生活知共有プログラムの実践・検証

今回の学習プログラムは、住まい手が教材に取り組む中で自宅の継承に対する価値観に気づき、学習会で住み継ぎに関連する情報や地域住民と経験を共有することで住み継ぎの選択肢や地域環境継承の留意点を理解し、具体的な行動を起こすための主体性を引き出すことを目指すものである。教材開発にあたり、広島市 W 学区の住民と教材案に関する意見交換会を実施した。教材案として、住経験・住み継ぎの意向・地域環境の現状等の記入ページ、住宅管理・住み継ぎやまちづくりに関する情報掲載ページ、ヒアリング調査で得た住経験の記述の 3 点で構成する冊子を提示した。意見交換会では、教材への記入が住み継ぎや地域環境を考えるきっかけとなる様子、他者の経験を聞くことで他者の経験を自分の選択肢として捉える様子、自宅周辺環境の変化が自宅の将来設計を考え直す要因となる様子が確認できた。住まい手の住み継ぎや地域環境の継承に対する主体性を引き出すためには、自身の住経験や意向を教材に記入したり、居住地域の住民同士で教材を用いながら住経験を共有する場が必要といえる。

以上をふまえ、実践に使用する教材は、ライフステージごとの居住歴・住み継ぎの意向・自宅の維持管理履歴等を記入するページ、住宅管理・住宅継承・空き家に関する情報提供のページ、地域住民の住経験を掲載したページから構成した。学習会は住み継ぎの選択肢やその備え、空き家に関する概要説明を行った後に、住み継ぎに関するワークショップを行う構成とした。

教材を用いた学習会は広島市 W 学区住民を対象に実践し、参加者による教材および学習会の評価を行った。事前に参加者に住み継ぎの準備状況を聞いたところ、半数が準備していない状況だった。対して、事後のアンケートでは、全員から今後実践したいこととして、自分の考えを整理する、家族と話し合う、住まいを点検する、地域での取り組みを検討する等が挙げられ、主体的な姿勢が確認できた。また、住まいの今後を考えるきっかけとなったことには、教材を通して情報を得たこと、学習会で同じ地域の住民の経験談を聞いたことが挙げられた。参加者からは更なる住民の住経験の共有を求める声があり、住まい手の住経験や知恵の共有が住まい手の主体性を引き出すことに繋がることを確認できた。

今回作成した教材については、今後学習会参加者の評価及び意見を反映し、ヒアリング調査対象地域に配布する予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小林文香
2. 発表標題 住まい手の住経験にみる住まいづくりおよび住宅継承の課題
3. 学会等名 第67回大会日本家政学会中国・四国支部
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 三宅里咲、小林文香
2. 発表標題 広島県および県内7市町の住生活基本計画等にみる住情報提供のあり方
3. 学会等名 第67回大会日本家政学会中国・四国支部
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細田 みぎわ (Hosoda Migiwa) (10331670)	広島女学院大学・人間生活学部・教授 (35405)	
研究分担者	妹尾 理子 (Senoo Michiko) (20405096)	香川大学・教育学部・教授 (16201)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------